

「ありがとう」の反対語って？

1年学年主任 山本 隆祥

木々の緑が色濃くなる時期となりましたが、保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。皆様には日頃より本校の教育活動に対して、格別の御理解と御協力を賜っておりますこと、深く感謝申し上げます。

さて、1学期がスタートして約2か月が過ぎようとしています。1年生は北高生活に慣れてきた頃、2年生は中間学年としての自覚が芽生えてきた頃、そして、3年生は進路実現に向けて本腰を入れるようになった頃でしょう。各学年とも、自分の目標を明確にし、目標達成に向けて地に足を付けた生活をしてほしいものです。

さて、生徒の皆さんに質問です。ありがとうの反対語って、知っていますか。知っている人もいると思いますが、どうでしょうか。まずは、ありがとうの語源からお話ししましょう。「ありがとう」の語源は、形容詞「有り難し（ありがたし）」の連用形「有り難く（ありがたく）」が変化し、「ありがとう」になったようです。「有り難し」とは、「有る（ある）こと」が「難い（かたい）＝難しい」という意味で、簡単に言うと、「滅多にない」や「珍しくて貴重だ」という意味。もともとこの言葉は、神や仏を褒め称え、賞賛する言葉として使われていたようです。神や仏が見守ってくれて、自分のために、何か手助けしてくれる……。それはまさに、「滅多にないこと」どころか、「あり得ないこと」、もしくは「存在し得ないこと」ですよ。 「ありがとう」という言葉は、神様などに向けられた貴重な言葉、感謝の言葉だったのです。

さあ、それでは本題です。「ありがとう」の反対語って……。

答えは「**当たり前**」です。

生きていること、生活ができていること、学校に通えること、食べ物に困らないこと、勉強ができること、部活動ができること、友達と会話ができること、スマートフォンが持てること、などなど。皆さんは、毎日の日常生活を「当たり前」と簡単に思っていないですか。「当たり前」と思っているから、「ありがとう」という感謝の言葉がでないんでしょうね。普段の何気ない生活に、「当たり前」ではなく、「ありがたい（有り難い）」ということに気づき、「当たり前」のことに感謝の気持ちを持てるようになれば、自分の置かれている立場・状況において、今やるべきことに真剣に向き合えることができるのではないのでしょうか。さらに、人に対してだけでなく、自分が「当たり前」に使っている物に対しても、感謝の心が芽生えるはず。 「当たり前」のことを「当たり前」と思うのではなく、「当たり前」のことに對して感謝の気持ちがあれば、人間として、もっともっと大きく成長できると思います。

さあ、君たちの人生、まだまだこれからです。心も体も大きく成長させていきましょう。

今治北高校、頑張っていこう！

※お気付きの点や、御意見・御質問などありましたら、下に記入の上、お子さんを通じて担任まで御提出ください。

今治北高校の日々の様子をホームページに掲載しています。「今北日記」「生徒の活動」「部活動」など、ぜひ御覧ください。

今治北高等学校 学校公式サイト <https://imabarikita-h.esnet.ed.jp>

----- 切 り 取 り -----

____年 ____組 名前_____